

2000年2月15日発行

YEZO DEER COMMISSION

エゾシカ協会



News Letter No.4

事務局: 〒061-0212 石狩郡当別町金沢166 ガラガーエッジ ㈱ 内/ 電話: 01332-5-5533 FAX: 01332-2-3013/ Email: ida@gallagherage.co.jp

エゾシカ Topic

① 「ワシ類の鉛中毒防止のために」協会声明発表

エゾシカ猟のピーク;お正月休みを目前にした昨年12月27日、当協会から下記の声明を発表しました。大森司会長が道庁記者クラブでマスコミ各社に説明し、各紙で報道されました。

(声明の概要)

- ①非鉛弾は、試射を行いサイト調整をしておけば、命中率にそれほど問題はない。
- ②クリーンキル(首、心臓付近など急所に命中させる)を目指せば殺傷力についても問題ない。その際、伏射、ひざ射ち、依託射ち、あるいはスタンドを使用することをお勧めしたい。移動中のシカは撃たない。横向きになった折に撃つ。距離計等を使用して日頃から距離感を養っておく。ゲームを半矢にせぬよう、遠いゲームは見送る。
- ③銅弾は鉛弾に比べ貫通力が強いため、跳弾や貫通弾の危険性に留意する必要がある。シカの背後に安土のあることを確かめて撃つ。
- ④残滓は、必ず残滓ステーションに捨てる。

② 2000年度からライフル用鉛弾規制を道が正式決定 —散弾用も規制検討

国の天然記念物であるオオワシ・オジロワシが、エゾシカ猟に使われた鉛弾の破片を飲み込んで中毒死している問題で、北海道は2月21日、2000年度猟期からエゾシカ猟での鉛ライフル弾の使用禁止を決めました。2月下旬から公聴会などの手続きに入ります。散弾銃によるエゾシカ猟用の鉛のサボット・スラッグ弾については、2001年度猟期から規制する方向で検討に入りました。

道は同日、鉛ライフル弾の規制に関連して、銃弾の輸入代理店や道内の銃砲店に、鉛弾に代わる銅弾が安定的に供給できる体制づくりを要請し、北海道猟友会に対しては、会員ハンターへの周知を申し入れました。

ライフル銃が使用できるハンターは、狩猟免許を取得して10年以上の経験がなければならず、その間、エゾシカ猟には散弾銃を使用することになります。しかし、サボット銅弾を使用できる散弾銃が少ないほか、サボット銅弾そのものがあまり流通していないため、2000年度からの規制を見送り、2001年度からの規制に向けて検討することになったものです。

また、環境庁は同日、鉛散弾の使用を規制する水辺地域の選定基準を定めた「鉛散弾規制地域選定要領」を各都道府県に通知しました。要領は、各都道府県が来年度の猟期までにそれぞれの規制地域を1ヵ所以上定め、地域内での鉛散弾使用を禁止することを求めています。(1月22日付北海道新聞の記事を一部引用しています)

③ 道自然環境課エゾシカ対策係、車田利夫主任による「欧州におけるシカ保護管理の実態調査」20日間研修の報告がありました

北海道環境生活部では、平成10年に「道東地域エゾシカ保護管理計画」を策定し、当面の目標である個体数半減に向けた緊急減少措置を行っています。将来的には、エゾシカの生息状況に応じて捕獲圧を微調整します。そこで、現行の狩猟スタイルや体制に起因する各種課題の解決策を探るため、シカ類の計画的狩猟が行われている英国スコットランド、ドイツ、ハンガリーの3カ国で実態調査を行いました。この研修では、昨年2月のエゾシカ協会発足時にお招きした、スコットランドのシカ協会のヤングソンさんほか、各国のエゾシカ協会関係者の友人たちが協力してくださいました。

車田主任の調査では、制度的な面での実態が詳しく調べられており、担当者ならではの成果が得られました。報告書には、研修3カ国を含むヨーロッパの基本狩猟制度である猟区制度が、地域ごとの計画的な捕獲に役立っていることなどから、北海道に猟区を設定・運営することが、エゾシカの保護管理推進に寄与できる最も有望で実現可能なものである、と述べられております。

④ 「釧路・エゾシカ食肉活用フォーラム」(1月25日)の開催(井田事務局長参加)

道の「道東地域エゾシカ保護管理計画」によりかなりの捕獲が見込まれるエゾシカ肉を、食材としての価値および利用方法などについて広く理解を深めるためのフォーラムが開催されました。当協会会員の本間氏が、銅弾から肉活用まで幅広く講演しました。

講演後にエゾシカ肉料理(200人分)の試食会があり、食味などのアンケートも実施され、充実したフォーラムでした。

《当日の講演プログラム》

「災いのエゾシカを福となすために」
毎日新聞社根室通信部 本間浩昭 氏

「エゾシカ狩猟について」
北海道猟友会釧路支部長 花田寛 氏

「野獣肉としてのエゾシカについて」
エゾシカ解体処理業 佐藤弘 氏

「エゾシカ肉の栄養成分について」
北海道栄養士会 高尾雅子 氏



本間会員の講演風景

⑤ 「国際シンポジウム」に北海道大学大学院 横山真弓さん参加

2月14日から16日にかけて、国際シンポジウム「持続可能な資源利用としての狩猟:経験と挑戦(Hunting as sustainable resource utilization: experiences and challenges)」(<http://kzoo.chembio.ntnu.no/conference/konf.htm>)がノルウェーのトロンハイムにおいて開催されます。

ヨーロッパ、北米を中心に各国から著名なシカ類の研究者が集まり、各国における狩猟と狩猟動物の現状や今後の課題について報告・討論されます。エゾシカ協会では今回のシンポジウムに横山真弓さんを派遣し、エゾシカ協会の活動内容を発表します。北海道と同じような経験を持つ国、さらに進んだシステムを作っている国の方から、多くのご意見やご提案をいただけるように頑張ってお知らせいたします。

特に EU(ヨーロッパ連合)では、「21世紀のヨーロッパ市民の将来のために」環境保全を重視した持続的農

業への転換を目標に、農業者は自然資源管理者として位置づけられています。この EU の重点施策にシカ類との共生がどのように組み込まれているか、などについても伺ってきて頂きます。「エゾシカ協会」の将来構想の参考になるよう、帰国後、総会時に報告していただく予定です。



部 会 だ よ り



●被害対策部会より●

技術開発小委員会報告 地域科学研究所 若菜千穂さん

技術開発小委員会では、現在、エゾシカ被害に対する重要な対策のひとつとしてシカ柵に注目し、現状の把握と「シカ柵整備マニュアル(仮称)」の作成に向けて委員会を重ねています。

これまでに2回の小委員会を開催。主な議事概要は以下の通りです。

・第1回小委員会 1999年12月3日(金) 参加メンバー9人

被害対策として防鹿柵に焦点を絞ることを決め、委員会の最終成果として「シカ柵整備マニュアル(仮称)」を各委員が執筆分担してまとめることが提案されました。提案を受けて、シカ柵の現状や問題点が議論されましたが、すでに農業用のシカ柵がかなりの範囲にわたって整備されていることが分かり、まずは現状の把握に取り組むことになりました。また、シカ柵の整備に際しては、積雪深やシカの生態、人の出入り口の設置などの問題点が指摘されました。

・第2回小委員会 2000年1月14日(金) 参加メンバー10人

第1回の議論を受けて、地図に現時点におけるシカ柵の設置範囲を書き出し、農業用、道路用のシカ柵の現状を把握しました。特に農業用のシカ柵の現状に関する資料が委員から多く提出され、設計書や作図面をもとに具体的なシカ柵の構造に関して議論が行われました。

・今後のスケジュール

技術小委員会は今後も毎月1回開催し(次回は3月3日)、「シカ柵整備マニュアル(仮称)」のとりまとめに向け、意見交換や議論を重ねていきます。主な項目としては、シカ柵の設置状況の把握と農業用のシカ柵の整理、道路用シカ柵との連携、道路用シカ柵への応用などについて、これらをまとめていく予定です。

●保護管理部会より●

白滝村エゾシカ生態調査事業の受託

白滝村防鹿柵基本設計の内、エゾシカ生態調査の指導、助言を行いました。

エゾシカトロフィーの C. I. C. 規格案作成

角の枝数や大きさなどを競うトロフィーコンテストが欧米では盛んです。そのような企画に備え、エゾシカ(ニホンジカ)の角の計測方法などの規格案を作成しています。関心のある方は事務局まで御一報下さい。

●有効活用システム化部会より●

鹿肉シーズンに入った昨年末、鹿肉の各部位や特徴を活かしたヘルシー&美味しい料理研究と、今後の活用ルート開拓の参考のために、2分野の試食会を開催しました。

① 12月14日アトピーの子供向け鹿肉料理講習会 井田宏之事務局長

場所 勤医協 札幌病院そばの旧保育所
 時間 午後1時～4時 準備・片づけ
 (10時～17時)
 準備・調理 井田・佐々木さん(協会会員の奥さんくオーガニックサービス)・看護婦さん・3名
 講師 小児科 渡辺先生
 北海道文教短期大学 食物栄養学科 佐藤先生(会員)
 井田
 材料提供 精肉 足寄町 約8Kg ロース・モモ・スネ・ネック・シャブシャブ用スライス
 枝肉 北見枝幸のハンター約1頭分
 漢方 富樫漢方堂
 その他食材 エゾシカ協会
 参加者 約20名 あすなろ会 勤医協スタッフ

取材 北海道新聞(今春掲載予定)
 料理
 ①シューパウロー モンゴル風塩ゆで
 ②ステーキ モモのウコン・オリーブオイル・タマネギのマリネロース・塩味のみ
 ③佃煮 ネック・ごぼう・キノコ・鹿骨のスープストック煮
 ④鹿肉と野菜のシチュートマト味
 ⑤蒸し鹿肉の葛あんかけ
 ⑥肉だんごの漢方スープ煮
 ⑦ハンバーグ 塩のみ
 ⑧シャブシャブ
 感想 料理は、好評だった。食材に制限がかなりあって、難しかったが逆に楽しかった。味付けなしの蒸し鹿肉が温かいうち美味しかったのには、驚いた。

② 12月27日レストラン・モリエールでの調理試食写真撮影会

担当 (株)パブリックセンター 川上忠文会員
 会場 レストラン「モリエール」
 札幌市中央区宮が丘2-1-1
 会費 1人 3000円
 参加人数 12名
 料理 煮込み、ロースト



* 中道シェフからレシピを頂戴し、鹿肉に対する考え方・要望等をお聞きました。
 * 料理の写真とレシピは、今後、協会パンフレットなどで活用する予定です。

●品質管理部会より●

- ① News Letter No.3 と共にお配りした「ハンティング・マニュアル[暫定版]」については、多くの方々よりご意見をお寄せ頂き、有難うございました。目下修正中で[決定版]作りに向け、作業を進めています。別紙「連絡用紙」にてお気付きの点をお知らせ下さい。
- ② 「肉処理マニュアル」は昨年10月25日の「現地検討会」により、[暫定版]草案を作成しました。「現地検討会」では、会員各位の肉処理施設を見学させて頂き、大変お世話になりました。近く[暫定版]を肉処理関係会員にお届けしますので、ご検討のほどよろしくお願い致します。

事務局だより

公益信託大成建設自然・歴史環境基金の贈呈式がありました

昨年11月22日に助成金60万円の贈呈式が東京で行われ、会長が出席して、贈呈を受けた団体を代表し、エゾシカ協会の取り組みについて講演しました。

この助成金は、事務局のOA器機購入とマニュアル類の印刷費に主として充てるほか、事業費として「モデル地域の設定による適切な生息数管理手法の検討」を行う際に使われます。

会長インタビュー記事が掲載されました

「月刊アイワード」（北海道の印刷出版文化情報誌）の2000年2月号では、「野生動物との共生をめざすエゾシカ協会」が4ページにわたって紹介されました。また、「dec monthly」（北海道開発技術センター ニュースレター）の1999年12月号では表紙ページに北海道のエコロードについて「野生動物の交通事故対策の次は、動物の季節移動全体を妨げない配慮をした整備が必要」との大森司会長の見解が載りました。

環境科学研究センター検討会が開催されました

昨年12月7日に北海道環境科学センターで行われた道の研究機関によるエゾシカ研究の検討会において、「エゾシカ協会」の活動の様子を報告し、貴重なご意見等を頂きました。

エゾシカの肝蛭^{かんてつ}に関わる報道について、協会からコメントを出しました

2月1日付北海道新聞と十勝毎日新聞で足寄・白糠で狩猟されたエゾシカから人にも感染する肝蛭^{かんてつ}（扁形動物門の吸虫類）が初めて検出されたという報道がありました。協会では即座に対応し、食用に際しての寄生虫感染が極めて少ないことを認識してもらうコメントを報道機関に送り、続報が3日付の北海道新聞朝刊（下）と4日付の十勝毎日新聞に掲載されました。

寄生虫感染

販売用シカ肉 「危険性低い」

エゾシカ協会が見解

十勝管内足寄町で狩猟されたエゾシカの内臓から人にも感染する寄生虫カンテツ（肝蛭）が見つかった問題で、食肉利用を進める「エゾシカ協会」（会長、大森司紀之・北大獣医学研究科教授）は「①レバールの生食を除き、シカ肉による感染はほとんど発生しない②人への感染の多くは水辺のセリやクレンなどの山菜の生食で発生する一などの見解をまとめた。町営のシカ肉処理施設を持つ足寄町に「シカ肉は食べて危険はないのか」という電話が相次いだことを踏まえた対応措置。

同協会によると、カンテツは肉用牛にも感染し、一九九八年に道内で食肉処理された約二十万頭のうちの多数で寄生が確認された。この場合、肝臓は廃棄されるが、肉などは流通に回されている。感染源となる幼虫が、肝臓以外に潜む可能性が少ないほか、熱に弱く、肉は加熱すれば安全に食べられるためという。

同協会長の森司教授は、「特に流通、販売されているシカ肉は処理施設で加工されており、感染する恐れは極めて低い」と明言。併せて「家畜処理並みの衛生状態を確保する指導マニュアルを作成中で、さらに安心な食肉加工がされるよう呼び掛けたい」と話している。カンテツは牛、羊に多い寄生虫で、エゾシカへの感染は九一年、九八年に報告例がある。

道東調査の実施

《メンバー》大泰司会長、井田事務局長、本間浩昭会員

- 《スケジュール》12月17日(金) 北海道環境科学研究センター道東地区野生生物室および釧路支庁担当係のご協力とお世話を得て、釧路支庁管内の可猟区の現状視察と釧路及び阿寒での猟友会幹部との意見交換
- 12月18日(土) 北海道猟友会斜里支部の方々のご協力で現地調査と同支部会および斜里町役場の方々との意見交換
- 12月19日(日) 知床半島でのエゾシカ猟に同行し、解体方法などについて道猟友会斜里支部の方々からご教示を得る。北見市のハンターをお訪ねして銅弾の扱いなどについてご経験を伺う。

今回の調査では、支庁、町の担当者や猟友会の方々のお世話になり、今猟期前半のエゾシカ猟や銅弾使用の実情について、現地ならではの見聞をさせて頂くことができました。お蔭をもちまして、年末年始休暇のエゾシカ猟ピーク時に向けて、12月27日に協会アピールを行うことができました。この場を借りてお世話になった方々に、厚く御礼申し上げます。

《理事会のご案内》

日時 平成12年3月10日(金) 午後3時～5時
場所 北海道大学大学院 獣医学研究科 生態学教室
(札幌市北区北18条西9丁目)

《総会のご案内》

日時 平成12年3月27日(月) 総会：午後2時～4時
懇親会 午後4時～5時30分 (会費3,000円)
場所 ホテル ポールスター札幌4階「しやくなげ」
(札幌市中央区北4条西6丁目、TEL 011-241-9111)



* 社団法人申請にともなう定款及び会費規則等の変更案については、
3月10日の理事会において決定されます。
変更案は、総会において報告・協議させていただきます。

※総会(および懇談会)の出欠を別紙にておうかがいしています。
ご返事をよろしく願います。

情報・ご意見・感想など、事務局までお寄せ下さい。